

優秀賞

剣道のでこぼこ道

京都市立御所南小学校 5年 中西 優大

ぼくが「道」と聞いて頭にうかんだのは、「剣道」の「道」という字。その道は、一本道でなく、でこぼこでけわしい。

ぼくは、小学三年の時から剣道を習っている。小さいころから、おもちゃの剣で戦うのが好きだったので、竹刀をふつてみたいと思って、習い始めた。剣道は、習ったらすぐに自由に戦えると思ってた。でも大きくなっちゃった。

剣道をするには、まず、はかまをはいて、前後でひもを結ぶ。どうを付けるにも、ひもを三か所結ぶ。面は頭の後ろでひもを結ぶ。ひも、ひも、ひも。ぼくは小学一年の時に大きな病気をして、手が少し不自由だ。ひもを結ぶのは、本当に苦手だ。こんなにひもを結ぶことを知っていたら、習っていなかった。でも、竹刀を思い切りふるのは楽しい。しょうがなく、ぼくは家でひもを結ぶ練習を何度もくり返した。体の前でひもを結ぶのは、何とかできるようになった。むずかしいのが、後ろでひもを結ぶことだ。特に面を付け、それを支えながら頭の後ろでひもを結ぶと、どれがどのひもかわからなくなる。指がこんがらがる。だから何だん階かに分けて、指使いを練習した。できなくて、くやしくて、泣いた。くり返すうち、不格好な結び目だが、できるようになった。

すると、不思議に、剣道自体がうまくなった気がした。剣道は、剣さばきだけではない。はかまや面、どうを付ける作法から始まっている。作法を一つ一つこなして、毎日すぶりをしていると、剣道という道を一步一步進んでいる気がする。

この道はどこに続くのだろうか。試合で一番になることか。先生のように、九十二才でも竹刀をふるることか。ぼくにはそんな覚悟はない。みんなみたいな一本道ではなく、でこぼこ道で進みにくい。でも、ぼくは剣道が好きだ。とりあえず、この道を前に進みたい。